



## わんこそばの大食いに挑む 子どもたちの元気な姿

### 盛岡遊技業組合青年部会 (岩手県遊技業協同組合)

「児童養護施設の児童を招待しての『わんこそば大会』の開催」事業



盛岡遊技業組合青年部会  
部会長  
山田 哲郎さん

#### 選考理由

児童養護施設にプレゼントを渡すサンタクロース訪問事業を続けて10年。他の地区の施設の子どもたちとも交流を広げる目的で、事業内容を変えて、新たな施設の児童を招いての「わんこそば大会」。参加した青年部会の組合員の応援のもと、和気あいあい、児童のはしゃぎ声とともに大きな盛り上がり。全国から観光客を集めるほど有名な、わんこそばに地域の人の関心は高く、今回の「わんこそば大会」はニュース性もありマスコミが大きく報道した。「青少年健全育成」と「地域の共生」というテーマに叶う社会貢献活動である。



社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾 守人氏

### 10年続いたクリスマス慰問から わんこそば大会へ

岩手県遊技業協同組合の支部の一つである盛岡遊技業組合の青年部会は、現在、45歳以下の部会員11名で構成されている。青年部会では2013年までの10年間にわたり、盛岡市内にある児童養護施設の一つ、みちのくみどり学園（設置主体：社会福祉法人岩手愛児会）に対するクリスマス慰問を行ってきた。これは、部会員がサンタクロースに扮して施設を訪問し、施設に入所している子どもたち一人一人に名前入りのクリスマスケーキや、事前に施設側にヒアリングした子どもたちが希望するクリスマスプレゼントなどを手渡すものであった。

この活動が10年を迎えたことで、青年部会では新たな社会貢献活動に移行することを決定。活動の対象となる子どもたちとの交流の範囲を広げることを目的に、盛岡市内にあるみちのくみどり学園を含む3つの児童養護施設の子どもたちが参加するわんこそば大会を実施し、毎年、順番に1施設ずつ招待することにした。わんこそば大会にした理由について、青年部会の山田哲郎部会長は次のように語る。

「盛岡市のわんこそばは、観光資源としての側面が強い。地元の人でも、実は食べたことがないという人は少なくありません。しかし食べ比べという要素があって、参加すれば、かなり盛り上がります。県内の子ども会などでは実施しているところもありますが、施設側に確認したところ、開催したことがないということで実施が決まりました」。



幼児から高校生まで45名が参加したわんこそば大会



優勝した子どもにはメダルを贈呈



参加した子どもたち全員にお菓子やジュースなどをプレゼント

### 青年部会が主体となって 子どもたちに思い出を

2014年に、これまで交流のなかった青雲荘（設置主体：社会福祉法人小原慶福会）を招待して第1回目を開催したのに続き、昨年12月6日には、和光学園（設置主体：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団）の子どもたちを招いて、第2回目となるわんこそば大会を開催した。当日、会場となる滝沢市のわんこそば店、初駒盛岡インター店に招かれた子どもたちは、幼児から高校生まで全45名。青年部会からは山田部会長以下、6名が参加したが、実施に先立っての施設側との打ち合わせ、わんこそば店の選定、子どもたちの送迎用バスの手配、年代別の優勝者に贈るメダルや参加者全員に配る参加賞（お菓子詰め合わせ、ジュース）の準備なども、すべて青年部会で行った。

初めての体験に参加した子どもたちは大喜びで、100杯以上食べると店から記念手形がもらえるとあって、お店のスタッフがそばを用意するのも間に合わないほどの勢いで食べていたという。約1時間の制限時間で、優勝者は小学校低学年の部が83杯（2名）、高学年の部が115杯、中学生の部が150杯、高校生の部が157杯というから驚く。後日、参加した子どもたちから届いた感謝の手紙には、「わんこそばをやるのは初めてだったけど、いい体験になりました」、「すごくおなががいっぱいになりました。楽しかったです」、「100杯はいけると思ったけど、75杯しかいけなかった」といった感想が綴られていたという。参加した青年部会員からは、「子どもたちの頑張る姿や笑顔に勇気もらった」、「もっと食べたら子どもたちにハッパをかけられた」などの声が聞かれたという。

当日の様子は地元紙の盛岡タイムスが取材し、翌日の紙面に掲載された。行政機関などからも、「新聞報道で見たが、社会貢献活動の成果は非常に高い」などと評価されている。青年部会では今後も実施者も参加者も同じ時間を共有できる楽しい企画を考え、継続していく予定だという。